

スマホ適切、安全に利用します^{3/28}(火) 中日

津の小中生ら宣言まとめ周知活動

津市内の小中学生が、スマートフォンを適切に利用するための方法や約束事を自ら考えた。「津市小・中学生スマホ等安全利用宣言」と題してまとめ、生徒らが各校で周知活動に励んでいる。市教委によると、生徒が主導して考えた宣言は県内でも珍しい。

(鎌倉優太)

かがやくス・マ・ホ語呂合わせ



生徒からオンラインで宣言の報告を受けた森教育長(右)＝津市教委庁舎で

【津市小・中学生スマホ等安全利用宣言の合言葉】

か	顔が見えない危険性を知ろう
が	画面越したからこそ、言葉選びに気を付けよう
やく	約束を保護者と決めよう
ス	スマートに使おう(時間のめりはりを付ける)
マ	間違った情報に惑わされない
ホ	保護者や周りの大人に相談しよう

宣言は、「個人を特定できる情報はSNS(交流サイト)等に書き込みません」「相手が嫌な気持ちになるようなことや直接、言えないようなことは書き込みません」などの七項目。市内全二十校の生徒会役員を中心とする「津市中学生リーダー研修会」が一月からオンライン上でやりとりを重ね、宣言作りに取り組んできた。

十七日には、宣言のお披露目があり、森昌彦教育長らに研修会のメンバー約四十人がオンラインで報告した。久居東二年の古田和

鼓さん(四)らは、宣言をさらに「か」「が」「やく」「ス」「マ」「ホ」という語呂合わせの合言葉にまとめたと説明。「中学生だけでなく、小学生にも分かりやすいように工夫した」と狙いを伝えた。

市教委によると、二〇二二年度に文部科学省が実施した全国学力・学習状況調査で、津市の中学生で一日当たり二時間以上ゲームをしている割合は、全国平均50・3%に比べて56・3%。一日当たり二時間以上SNSや動画サイトを利用する割合は、全国平均52・0%に対し津市は56・5%だった。

宣言作成に向けて、研修会でもこうした統計への危機感が共有されたという。報告会では、中学二年のある男子生徒が「ゲームに夢中になって、成績が落ち込んでしまったことがある」と経験を明かした。

研修会のメンバーは通学先の各校で廊下や教室にポスターを掲示したり、生徒が使うタブレット端末に情報を送ったりして宣言のPRに努めている。

研修会を担当した市教委の平充央(みつな)さんは「校長会やPTA連合会などでも今回の取り組みを伝え、地域一体で宣言を普及したい」と話した。